

臨 床

赤ミミズ酵素サプリメント使用臨床医のコメント集

※書籍「よごれた血管がキレイになる赤ミミズ酵素―

10人の医師が証言する健康回復のすごい力」より抜粋

◎認知症

- 認知機能 -

(本文91ページ～93ページ)

脳血流の悪化によるひどい物忘れが改善

岩田明 医師

「この方は、79歳の男性です。物忘れがひどいということで、親戚の方の紹介で来院されました。最初に診察室に付き添われて入って来たときは、無表情で言葉数もほとんどありませんでした。頭部CTを撮ると、頭頂葉、前頭葉、側頭葉、海馬、いずれも萎縮はみられません。そこで認知機能のテストを行うと、針時計を描いてもらうテストは8.5点（9点満点）、改訂長谷川式テストは25点（30点満点）、近時記憶4点（満点6点）と、若干低下していることがわかりました。

脳の血流が悪くなると、単純に物忘れという症状があらわれます。脳卒中の後遺症として起こってくる脳血管性認知症は、そのために起こっている認知症です。この方は脳卒中の経験はないので、脳血流の状況が良くなれば症状もなくなっていくと考えられました。そこで、プレタールという抗血小板薬（100 mg）と赤ミミズ（1日4カプセル）の飲用を開始しました。ただしプレタールは頭痛の副作用が出たので10日間で中止、同じ抗血小板薬バイアスピリン（100 mg）に変えました。

1か月後の受診では、物忘れはほとんどなくなっていました。改訂長谷川式テストは29点とほぼ満点、近い記憶にかぎっては6点と満点でした。異常なしといえる結果ですが、これはサプリメントの作用だけで得られたものといえると思います」

(本文114ページ～115ページ)

サプリメント1粒で話し始めた患者さん

松野晋太郎 医師

松野先生は、血管による認知機能の低下があると思われる患者さんに対しては、積極的に赤ミミズを勧めています。またアルツハイマーの患者さんでも、BTSD（暴力・暴言、介護拒否、妄想など、認知症によって付随的に起こる行動障害）があつて家族が困っているような場合にも推奨しています。

「脳血流が良くなることで妄想が消えたり、失禁が治ったりします。BTSDは抗認知症薬ではなかなか症状の改善にはねかえってこないのです、どうやって治したらいいかわからない先生も多いと思いますけど、そういうときは赤ミミズ酵素が使いやすいと思いま

す。

劇的だったのは、2年間寝たきりで私自身しゃべったのを見たこともなかった患者さんが、赤ミミズサプリ1カプセルを飲んで寝たら、翌日『私は佐藤です、おはようございます』と言って家族を驚かせたそうです。その方はよほど脳血流が悪かったのか、あるいは降圧剤が効きすぎていたのかもしれませんが」

- 脳血管性認知症 -

(本文 127 ページ～128 ページ)

赤ミミズで、元気になった、意欲的になった

中村聡 医師

中村先生は、MRI や CT などの検査で虚血性疾患（血栓症）が疑われる患者さん、あるいは動脈硬化が進行している、基礎疾患として糖尿病、高脂血症、高血圧症がある、認知症であれば血管性認知症のおそれがある患者さんなどを対象に、赤ミミズを活用しています。

「飲用した患者さんは、しっかりする、元気が出る、といった印象をもたれるようです。ふさぎ込んでいて何もしゃべらなかつたおばあちゃんが、表情がやわらかくなって笑顔も見られるようになった、明るくなった、意欲的になった、そういう声も多いです。家族にとっては、それはいちばん嬉しいことのようにです。脳の毛細血管が改善して、より多くの血液がすみずみまで流れるようになれば脳機能も良くなるのが自然ですから、それで元気な感じになるんだろうと思います」

血管が詰まって循環不全で起こる血管性認知症の患者さんは怒りっぽくなるといわれていますが、逆に元気がなくなる、ふさぎ込んでしまうという陰性の症状をあらわす場合もあるそうです。

「認知症でなくとも、小さな無症候性脳梗塞がたくさんあって脳内で慢性的な循環不良があると、ヴァスキュラー・ディプレッション (Vascular Depression = 脳血管性うつ病) を起こすことがあります。新鮮な血が行き渡らなくなると脳の機能が低下して、うつ病になってしまうんです。血管性認知症の場合には、頭頂葉の機能が落ちるので理性を失いますが、一方で行動的でなくなり抑うつになる場合もあります。このような脳血管の循環不良による陰性症状が、赤ミミズの飲用によって循環が改善されることで治っていく。単純ですが、起こりうることだと思います」

- 妄想 -

(本文 89 ページ～90 ページ)

認知症治療における効果

岩田明 医師

岩田先生は、妄想という症状に効くと言います。

「僕たち脳の医者は、いつも脳の血流をふやしたい、脳の血流が少なくなっているはいけないと考えています。脳血流が悪くなったときに顕著に表れる症状が、じつは妄想なんです。誰かにお金を盗られたとか、うちのダンナは隣の奥さんと浮気しているとか、

ありえないことを妄想して不機嫌になる。ところが、認知症でよくみられるこの症状は脳の血流が良くなると、きれいになります。血流が悪くなると起こる症状なんです」

たとえば、暖かい季節になると脱水気味になるため血液の流れが悪くなり、脳の血流量も減ってしまいます。だから春先から夏にかけては、施設などに往診にいくと入居者の方はみんな妙にそわそわしている、というのです。

「それからもう一つのリスクが、血圧の薬です。お年寄りですから誰でも血管が硬くなって血圧が上がりやすいので、降圧剤を飲んでいる人も多い。でも血圧の薬は脳の血流を悪くします。それによって妄想も悪化します。だから、暖かい季節になって患者さんがそわそわしはじめたときは、血圧をチェックして、薬を見直します。もし 130 以下だったら薬を減らす、やめる、ということが必要になるわけです」

これは認知症になってしまった患者さんだけでなく、高齢者のすべてにいえることだと岩田先生は指摘します。高齢者の場合、薬で血圧を 130 以下におさえていると認知機能が衰える、認知症になりやすい、という論文があるそうです。

「降圧剤は、血圧を上げている仕組みにピンポイントで作用させるものですが、赤ミミズ酵素サプリメントはそうではなく必要以上に下げすぎることはありません。ですから、サプリを出して薬を減らしていきながら血圧コントロールをしていく、という作業をしていきます。すると、降圧剤をやめたおかげで脳血流が上がり、一方で赤ミミズ酵素によっても血流量もふえます。こうして薬が要らなくなる状況をつくれるのが理想です」

- 用量 -

(本文 90 ページ～91 ページ)

赤ミミズ酵素サプリメントの使用量について(認知症治療) 岩田明 医師

岩田先生はまたサプリメントの用量について、認知症患者の場合等は、費用対効果の面も含めて、製品のパッケージに記されている推奨量を必ずしも飲まなくてもいいだろう、と話します。製品の価格は、メーカー推奨量で飲用すると月に 1 万円を超えてしまうタイプもあり、患者さんにとっては経済的負担が大きいこともあるからです。

「僕はフェルラ酸サプリメントも赤ミミズ酵素サプリメントも、2 粒ずつ出すんです。なぜなら、両方飲んでいただくことが重要な患者さんが多いからです。ただし認可薬ではないので、けっこうお金がかかる。1 日※6 カプセル(赤ミミズ 150mg) が推奨されていますが、僕の感覚だと 1 日 2 粒ずつでも効きます。入所している方は入居費用もありますから、そこを無視して考えることはできません。どちらかをやめるのではなく少量ずつ両方とも飲めるようにと、ご家族にお話ししています。2 粒ずつでも血栓はゆっくり溶けるので、高齢者にはむしろそのほうが安全ではないかとも思います」

岩田先生は、漢方薬でもサプリメントでも、はっきりわかるように効くものには作用が強くなることもあると考えたほうがいい、といいます。コストの面も含めて、とくにお年寄りは少量ずつ試すことを勧めています。

※参考：「ルベスト」1カプセル中、赤ミミズ HLP 粉末 25 mg配合（1日目安量 4～6カプセル）

- 予防 -

（本文 129 ページ～130 ページ）

赤ミミズサプリメントを、認知症を含めた生活習慣病の予防に 中村聡 医師

中村先生は、赤ミミズ酵素が血管トラブルを解消してくれるのであれば認知症の予防としても期待できるのではないかと思います。

「以前は、アルツハイマーの発症は脳血管とは関係がないと考えられていました。最近では、脳の小さな血管が詰まることによってアルツハイマーが発症するリスクが明らかに上がる、ということがわかっています。

認知症の予防法は、糖尿病、心臓病、脳卒中などの予防法と同じだと、よくいわれます。つまり、適度な運動、肥満しないような食事、禁煙、血圧を下げるなどですけど、これはみんな血管トラブルを起こさないための生活習慣なんですね。大きい目でみれば認知症も老化ですが、それは血管病だから、ともいえるわけです。赤ミミズは、そうしたものを全体的に予防してくれるサプリメントといえるだろうと思います」

60歳を過ぎたらみんなアスピリンをのんだほうがいい、という医師がいます。アスピリンは鎮痛剤・抗炎症剤として有名ですが、少量の服用で抗血栓作用が得られることがわかっているからです。副作用もほとんどないから、心臓病や脳卒中の予防のためにみんな毎日、少量ずつ飲めばいい、というわけです。

「同じような意味で、プレタールという抗血栓剤もいい薬です。プレタールは認知症の患者さんにとってもいいのですが、脳血管が拡張するので頭痛の副作用が起こることがあります。頻脈になることもある。そういう場合には、同じような作用が期待でき副作用のない赤ミミズを使うといいですね。赤ミミズ酵素サプリメントを飲んだ患者さんは、血圧についてはみんな下がったと言いますから、それだけでも価値はあると思います」

中村先生はさらに、脳血管障害がある人に良い薬を紹介してくれました。ロトリガなどのオメガ-3脂肪酸の薬です。

「オメガ-3脂肪酸は、EPA や DHA などです。脳にとっても重要な脂質なのですが、脳への血管を通過しにくいので大量に摂る必要があります。しかしいまの日本人はあまり魚を食べませんから、食事の栄養を補う意味でもこれらの薬はいいですね。血管性のリスクがある患者さんには、プレタールかロトリガを処方して、サプリメントとしては赤ミミズを紹介しています」